

2019年9月3日

■サウジアラビアが工業鉱物資源省を新設

九門 康之

<工業鉱物資源省>

サウジアラビアは、本年8月30日の勅令により工業鉱物資源省を新設した。同省はこれまでエネルギー工業鉱物資源省が管轄していた鉱物関連を所管する。バンドル・ホライイエフが工業鉱物資源相に就任する。ホライイエフ新大臣は1991年サウード国王大学を卒業、ホライイエフ・グループを率いるビジネスマンである。

<鉱物資源開発>

鉱物資源開発は、国家戦略ビジョン 2030 を推進する「国家産業開発及び物流計画 (NIDLP)」の4大施策の一つである。NIDLPによれば、サウジアラビアには1兆3,000億ドル相当の未着手の鉱物資源が存在する。同計画では、資源開発に1,200億ドルの投資を行う予定。サウジアラビアの鉱物資源埋蔵推定額は、リン鉱石3,210億ドル、金2,290億ドル、銅2,220億ドル、亜鉛1,380億ドル等である。

サウジアラビアは鉱物資源開発の担い手として、1997年にマアーデン社を設立した。同社は2008年に株式公開し、金、銀、銅、亜鉛等の鉱山を開発している。2009年には米アルコアと合弁企業を設立し、アルミの生産にも着手した。今年5月には、インドとフィンランドの企業とサウジアラビア中央部の金鉱山開発契約（マンスーラ・プロジェクト）に調印した。同鉱山の金精錬プラントは2022年に完成し、年25万オンスの金を生産する計画である。

サウジアラビアにおける鉱物資源開発は1990年代よりその潜在性が議論されてきたが、2000年代のマアーデン社の活動拡大とビジョン 2030 を通じ、非石油部門開発の柱として成長した。

<ビジョン 2030 での位置づけ>

サウジアラビアは国家戦略ビジョン 2030 の中で、鉱業部門を戦略的投資拡大分野として「970億サウジ・リヤール（約259億ドル）の生産を達成し、9万人規模の雇用機会の創出を目指す」としている。同国は、探鉱活動の促進を通じて、民間部門の投資を活性化しようとしている。政府側でも、国内の鉱物資源に関するデータを集めた総合データベースを構築し、探鉱許可取得プロセスを見直し、中核となる研究拠点を設立するなど、一連の機構改革を検討している。海外との関係では他国との戦略的パートナーシップにより、サウジアラビア企業の競争力と生産性の向上を目指している。

サウジアラビアは経済多角化の目標として、2030年までに輸出に占める非石油部門比率を現在の約23%から50%に引き上げるとしている。鉱物資源関連輸出の現在の輸出に占め

る比率は 2.4%であるが、石油、石油化学・プラスチック製品に次ぐ有望分野である。

今回の工業鉱物資源省の設置は、ビジョン 2030 を実現するための一つのステップと理解できる。今後のサウジアラビア経済の多角化に注目したい。

(以上)